

令和 7 年度 姫路市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和 8 年 5 月
姫路市（兵庫）

○計画期間:令和 7 年 4 月～令和 12 年 3 月(5 年 0 月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和 7 年度終了時点(令和 8 年 3 月 31 日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和 7 年 3 月 14 日に第 4 期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、令和 7 年 4 月から令和 12 年 3 月までの計画期間中「国内外の人々が行き交い、多様な人々に愛される持続可能な城下（まち）」を基本テーマとし、これまでの 3 期にわたる基本計画で創出した姫路駅周辺や姫路城等の高質なストックを活かすとともに、更なるにぎわいと回遊、滞留を促す事業を展開し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

令和 7 年度の目標指標については「歩行者通行量」は基準値 85,542 人/日（R5 年度～R6 年度の平均値）から 3,353 人減（3.9%減）の 82,189 人、「居住者数」は基準値 11,099 人(令和 5 年 12 月末の数字)から 697 人増（6.3%増）の 11,796 人となっている。エリアの価値や中心街の魅力度を表す「地価」についてはいずれも前年度から微増となり、これまで実施してきた事業効果によりエリア価値向上が維持されている結果が反映されている。

事業取組の概要としては、姫路駅と姫路城の中間地点に位置する大手前通り沿道に新たな観光拠点施設として、(仮称)観光交流センターが令和 8 年 10 月に開業予定であり、回遊性の向上及び観光消費の拡大が期待される。「ウォーカブル推進事業」においては、公共空間を活用したにぎわい創出や居心地が良く歩きたくなるまちなかの推進及びエリア価値向上を目指す事業に対する支援制度として、姫路市まちなかウォーカブル推進事業補助金を創設した。大手前通りイルミネーションなどの「大手前通り魅力向上推進事業」と合わせて、訪れたい目的の地を増やす取組を促進し、まちなかのにぎわい創出を図っている。これらの事業取組により、まちなかにおいて、公共空間を活用した様々なイベント開催の機運の高まりや、夜間や冬季期間における来街者の増加、民間マンション建設に伴うまちなかにおける居住先の増加など、中心市街地の活性化につながっている。一方で目標指標である歩行者通行量については昨年度比で減少していることから、引き続きまちなかへの誘引や回遊性向上につながるよう、更なるにぎわいづくりに取り組んでいく必要がある。

計画から 1 年が経過したが、目標指標に関しては前年度比で大きな変化が見られない。一方で、今後の計画期間中の事業について直接効果を発揮するものもあることから、引き続き事業進捗について留意しながら、(仮称)観光交流センターの開業や大手前通りイルミネーションの実施範囲拡大等により、まちなかへの誘引や回遊性の向上を図るなど、中心市街地の活性化に取り組む。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年12月31日時点) (単位：人)

(中心市街 地区域)	令和6年度	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
人口	11,257	11,796	-	-	-	-
人口増減数		539	-	-	-	-
自然増減数		-14	-	-	-	-
社会増減数		553	-	-	-	-
転入者数		1,735	-	-	-	-

(2) 小売販売額 (万円)

(単位：百万円)

	令和3年度 ※前回調査時	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
市全体	55,073,750					

※現時点での最新値が「経済センサス活動調査 (令和3年度)」であるため、記載不可。

(3) 事業所数

(単位：件)

	令和3年度 ※前回調査時	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
市全体	4,701					

※現時点での最新値が「経済センサス活動調査 (令和3年度)」であるため、記載不可。

(4) 地価

(単位：円/㎡)

	令和6年度	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
呉服町32番	416,000	420,000	-	-	-	-
駅前町252番	1,630,000	1,660,000	-	-	-	-
西二階町22番	155,000	159,000	-	-	-	-
忍町88番外	295,000	315,000	-	-	-	-
豊沢町129番	249,000	254,000	-	-	-	-
東延末1丁目4番	537,000	544,000	-	-	-	-

延末1丁目 100番	109,000	111,000	-	-	-	-
---------------	---------	---------	---	---	---	---

2. 令和7年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

基本計画に基づく第4期基本計画フォローアップ（1年目）に関する意見について、適切であると評価しますが、本協議会の意見として、今後の中心市街地活性化に向けて、下記の通り提言します。

1. 姫路市観光交流センター（以下、交流センター）に関する事項

（1）地域事業者の参画と協働体制の構築

交流センターは、観光案内や物販にとどまらず、周辺商店街等に関する情報発信を通じて、来訪者をまちなかへ誘導し、中心市街地の回遊促進と地域経済の活性化に資する拠点として期待されています。

その効果を高めるには、運営決定方針前の企画段階から商店街等関係者が参画し共に事業を具体化する仕組みが不可欠という意見も寄せられています。

ついては、運営事業者、商店街、行政等の関係者が参画する協議の場を設置し、中心市街地の回遊促進に繋がる具体策を検討していただきたい。

（2）地域事業者を巻き込んだ姫路の魅力発信

交流センターの運営については、運営事業者が採算責任を負うことは十分に理解しますが、交流センターが有する集客力や運営事業者の専門的ノウハウを、地域の生産者や事業者との連携にも活用いただきたいという意見も寄せられています。

ついては、商品企画、販売促進、情報発信等に関する知見を地域事業者と共有する仕組みを整備し、商品開発やブランドづくりに協働して取り組んでいただきたい。

2. その他中心市街地活性化に資する事項

（1）商業環境の改善と歩行者の安全性確保に向けた対策

旧ヤマトヤシキ姫路店跡地に建設されたマンションのセットバック部分の影響により、ビル風や雨の吹き込みが生じており、当該商店街では防風幕の設置等により対応されています。しかしながら、路面の安全確保や通学路としての公共性を維持する観点からは、商店街の自助努力のみでは対応に限界があります。

ついては、貴市においては、当該商店街及び関係者と協議の上、防風幕の更新への協力や路面对策等について、具体的な支援をお願いしたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
賑わいと感動にあふれる中心市街地の確立	歩行者通行量	85,542 人/日 (R5 年度～R6 年度の平均値)	91,000 人/日 (R11 年度)	82,189 人/日 (R7 年度)	C	-	A
魅力ある商業地としての中心市街地の形成	新規出店店舗数	30 店舗(1 年間) (R2 年度～R5 年度平均)	31 店舗(1 年間) (R7 年度～R11 年度の平均)	27 店舗 (R7 年度)	C	-	A
	空き店舗数(補完目標)	32 店舗 (R5 年度調査)	27 店舗 (R11 年度調査)	32 店舗 (R7 年度)	B	-	A
多様な人を包摂する市民の暮らし・生活の場の充実	居住者数	11,099 人 (R5.12 月末時点)	11,100 人 (R11.12 月末時点)	11,796 人 (R7.12 月末時点)	A	-	A
民主導による持続的なエリアマネジメントの構築	来街者の中心市街地での滞留時間(補完目標)	215.8 分/人 (R6 年度調査)	230 分/人 (R11 年度調査)	- ※次回調査 R9 年度	-	--	-

<基準値からの改善状況(※1)>

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A: 目標達成、B: 基準値より改善、C: 基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類(※2)>

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A: 目標達成が見込まれる

B: 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C: 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「<基準値からの改善状況(※1)>」、「<目標達成に関する見通しの分類(※2)>」ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例: a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」については、令和7年度は82,189人と前年度から295人減となり、基準値・目標値ともに下回る結果となった。しかしながら10か所中6か所においては前年度比増となっており、特に大手前通り(地点1、2、9)については大きく増加しており、

「ウォーカブル推進事業」や「大手前通り魅力推進向上事業」の効果により、居心地がよく歩きたくなるまちなかが形成されることを目指した効果や、大阪・関西万博の開催、姫路城への来城者数がコロナ禍前の水準に戻ったことなどが考えられる。引き続き「ウォーカブル推進事業」「大手前通り魅力向上推進事業」「観光受け入れ体制の整備」について民間事業者と連携しながら進めることに加えて、「(仮称) 観光交流センター整備事業」により新たに開業予定である(仮称) 観光交流センターの設置や大手前通りイルミネーションの事業範囲拡大による効果により、訪れたいくなる目的地が増加することで、まちなかへの誘引や回遊性の向上が図られることで、目標達成は可能と見込まれる。

「新規出店店舗数」については、令和7年度は27店舗となり、基準値・目標値ともに下回る結果となっている。全体としては目標数値に届かなかったものの、「中心市街地空き店舗対策事業」、「街なか創業支援事業」については、昨年度比で実績が増加するなど概ね順調であった。更なる新規創業の増加に繋がるよう、事業の課題や時流に応じて制度の内容を見直すことで、目標達成は可能と見込まれる。

「空き店舗数」については、令和7年度時点で32店舗となり、前年度の35店舗から3店舗減少している。令和7年度は旧ヤマトヤシキエリアで新たに空き店舗が増加(4店舗)したにも関わらず前年度比減となっていることから、空き店舗数は減少傾向となっている。引き続き「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「街なか創業支援事業」による新規出店の促進により、数値改善につながると考えられることから、目標達成は可能と見込まれる。

「居住者数」については、令和7年度で11,796人と前年度から539人増加しており、基準値・目標値ともに上回る結果となった。民間事業者によるマンション建設に伴い、まちなかにおける居住先が増えたことが要因と考えられるが、前計画までの記載事業の成果による居住快適性向上、姫路駅前の整備による公共交通(バス等)の利便性向上、生活利便性の高い商業施設のオープンや、姫路駅周辺や大手前通りにおける歩行者優先の空間の整備など、中心市街地で暮らすことに対する魅力が向上していることが、継続的なマンション建設及び居住者数増に繋がっていると考えられる。引き続き「大手前通り魅力向上推進事業」など「住みたいまち」としてのブランド力向上に向けた取組や、「姫路駅周辺土地区画整理事業」、「駅南土地区画整理事業」による姫路駅を中心とする南北市街地の一体化に向けた取組により、「住み続けたいまち・住みたいまち」としての魅力向上が見込まれ、目標達成は可能と見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

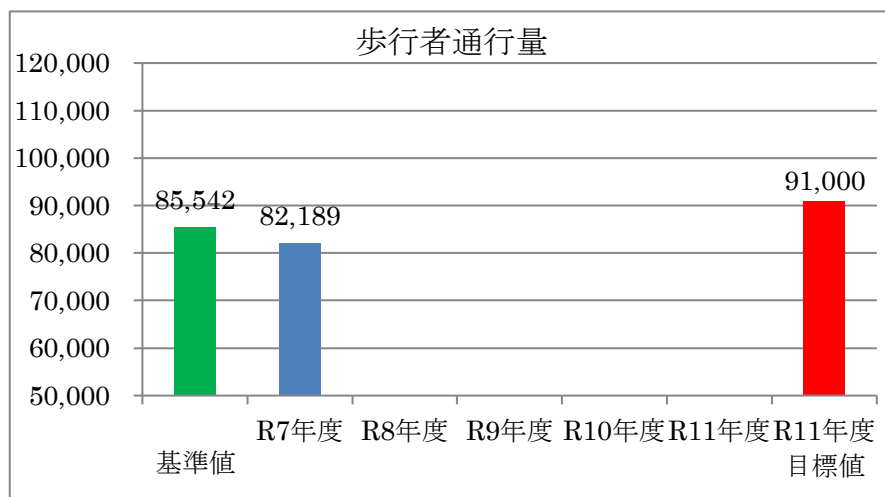
前回は、計画策定初年度であったためフォローアップを実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者通行量」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 58～P. 59 参照

●調査結果と分析



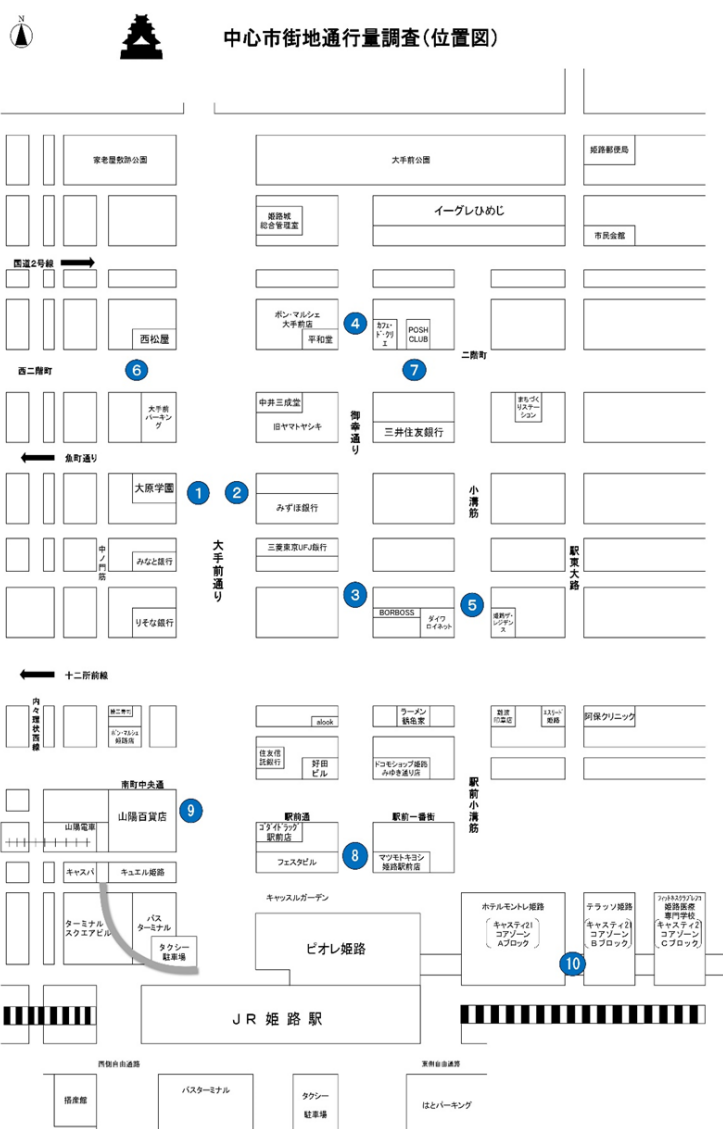
年	(単位：人)
R5～6 平均	85,542 (基準年値)
R7	82,189
R8	
R9	
R10	
R11	
R11	91,000 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査、毎年4月29日に10点において10時～18時で計測

※調査月：令和7年4月

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内10地点における歩行者通行量



(単位：人)						
	令和 6 年度	令和 7 年 度(1 年 目)	令和 8 年 度(2 年 目)	令和 9 年度 (3 年目)	令和 10 年 度(4 年 目)	令和 11 年 度(5 年目)
地点 1	3, 281	5, 587				
地点 2	3, 297	4, 622				
地点 3	12, 937	13, 593				
地点 4	10, 730	10, 905				
地点 5	4, 249	4, 561				
地点 6	3, 281	3, 179				
地点 7	4, 489	4, 115				
地点 8	23, 250	16, 952				
地点 9	6, 897	10, 598				
地点 10	10, 073	8, 077				
合計	82, 484	82, 189				

〈分析内容〉

各事業については、概ね予定通り進捗した。しかしながら 10 地点合計において、令和 6 年度比から微減（▲295 人）という結果になっている。

10 か所中 6 か所においては前年度比増となっており、特に大手前通り（地点 1、2、9）については大きく増加しており、ウォーカブル推進事業や大手前通り魅力推進向上事業の効果により、居心地がよく歩きたくなるまちなかが形成されることを目指した効果や大阪・関西万博の開催、姫路城への来城者数が、コロナ禍前の水準に戻ったことなどが考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ウォーカブル推進事業（姫路市、民間事業者、自治会等）

事業実施期間	令和 7 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	歩きたくなるまちなかを目指し、日常的な公共空間利活用を進めるため、地域の自治会や民間事業者が主体となり社会実験等を実施する。実施の支援を行うとともに、効果や課題の検証、具体的な利活用の仕組みづくり等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 歩行者通行量：+2, 299 人/日 【最新値】 令和 7 年度：10, 209 人/日【令和 6 年度（6, 578 人/日）比

	+3,631 人/日】(地点 1, 2) 大手前通りにおける令和 7 年度の通行量は 10,209 人/日(地点 1 及び 2 の合算値)となり前年度(6,578 人/日)に比べると約 55%増加している。 「姫路市ウォーカブル推進計画」は、中心市街地において歩行者優先の居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指し、公共空間利活用の仕組みやリノベーションまちづくりなどのウォーカブルな環境づくりに資するさまざまな取組を進めていくため、令和 3 年 3 月に策定された。「姫路市ウォーカブル推進計画」の検証区域かつ重点区域である大手前通りエリアを中心として、様々な社会実験を官民一体となって実施し、中心市街地において、訪れたいくなる目的地を創出し、魅力的なエリアとなることを目指した。 令和 7 年度から民主体のウォーカブルな取組に対して、事業費の一部を補助する「姫路市まちなかウォーカブル推進事業補助金」を始めるなど更なる事業の推進を図っている。 当事業の推進により、日常的な公共空間利活用がさらに定着化していくことで、事業目標値(2,299 人/日増加)の達成継続を目指す。
事業の今後について	民間事業者または住民が、日常的な公共空間を活用しながら、自らが属するエリアの活性化に取り組むことで、中心市街地内に魅力的なエリアが点在し、目的地の多様化が進むことにより、足を運んで訪れたいくなるエリアの形成を目指す。

②. 大手前通り魅力向上推進事業(姫路市、ほこみち制度における占用者)

事業実施期間	令和 7 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	「歩いて楽しい、大好きなお城への道～「ひと」が集い「まち」とつながる大手前通り～」をコンセプトに再整備された大手前通りにおいて、人が滞留し、にぎわいのある魅力的な空間創出を目指し、歩行者利便増進道路(ほこみち)制度による日常的な活用及びイベント活用を通じて大手前通りのエリア価値向上に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 歩行者通行量：+2,299 人/日 【最新値】 令和 7 年度：10,209 人/日【令和 6 年度(6,578 人/日)比 +3,631 人/日】(地点 1, 2) 大手前通りにおける令和 7 年度の通行量は 10,209 人/日(地点 1 及び 2 の合算値)となり前年度(6,578 人/日)に比べると約 55%増加している。

	大手前通りは、令和3年2月に全国初の歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）に指定し、令和4年5月には沿道の民間事業者からなる大手前通り街づくり協議会が道路占用者として、民間のノウハウを活かした公共空間の利活用が可能な体制が整えられた。沿道店舗がテーブルやいす等を設置し日常的な滞留空間を演出する「常設エリア」と、キッチンカーやテントの一時設置が可能な「イベントエリア」の2種類の運用で、大手前通りのにぎわい創出を図っている。また、令和5年度からは、冬季に「大手前通りイルミネーション事業」を実施し、ほこみちの活用と合わせた滞留空間の創出を図っている。 当事業の推進により、日常的な公共空間利活用がさらに定着化していくことで、事業目標値（2,299人/日増加）の達成継続を目指す。
事業の今後について	令和8年度は、イルミネーションの事業エリアを姫路城周辺まで拡大させ、まちなか全体の更なる回遊性向上を図る。 人が滞留し、にぎわいのある魅力的な空間創出を目指し、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度による日常的な活用及びイベント活用を通じて、大手前通りのエリア価値向上を目指す。

③. 観光受け入れ体制の整備（姫路市、民間事業者）

事業実施期間	令和7年度～令和11年度【実施中】
事業概要	観光案内所の運営や観光ガイドの運用により「国際観光都市」にふさわしいおもてなしの体制づくりに取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 歩行者通行量：+2,472人/日（6地点の合計 +412人（1地点平均増減数）） 【最新値】 令和7年度：82,189人/日 【令和6年度：82,484人/日 ▲295人/日】（10地点 ▲29.5人（1地点平均増減数）） 令和7年度の姫路城の入城者数は1,567,674人（日本人1,020,248人、547,426人）となっており、前年度（1,532,111人）から増加となっているが、歩行者通行量については、目標数値を下回る結果となっている。
事業の今後について	集客力のあるイベント（『ひめじぐるめらんど』『全国陶器市』等）を開催することで市内外からの誘客を促進し、「歩行者通行量」の増加を目指す。

④. 姫路城周辺観光推進事業（姫路市、民間事業者）

事業実施期間	令和7年度～令和11年度【実施中】
事業概要	姫路城周辺エリアにおいてにぎわい創出事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 歩行者通行量：+2,472人/日（6地点の合計 +412人（1地点平均増減数）） 【最新値】 令和7年度：82,189人/日 【令和6年度：82,484人/日 ▲295人/日】（10地点 ▲29.5人（1地点平均増減数）） 令和7年度の姫路城の入城者数は1,567,674人（日本人1,020,248人、547,426人）となっており、前年度（1,532,111人）から増加となっているが、歩行者通行量については、目標数値を下回る結果となっている。
事業の今後について	観光ガイドや観光案内所での多言語対応等に取り組むことで、国内のみならず海外からの来訪客にとっても訪れたいまちとしての価値が向上することを目指す。また旧ヤマトヤシキ跡地において新たに整備予定の（仮称）観光交流センターが令和8年10月に開業予定であるため、近隣類似施設との役割分担と連携を行い、観光客の更なる回遊性向上を目指す。

⑤. 姫路公園活用事業（姫路市、民間事業者）

事業実施期間	令和7年度～令和11年度【実施中】
事業概要	姫路公園においてにぎわい創出事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 歩行者通行量：+2,472人/日（6地点の合計 +412人（1地点平均増減数）） 【最新値】 令和7年度：82,189人/日 【令和6年度：82,484人/日 ▲295人/日】（10地点 ▲29.5人（1地点平均増減数）） 令和7年度の姫路城の入城者数は1,567,674人（日本人1,020,248人、547,426人）となっており、前年度（1,532,111人）から増加となっているが、歩行者通行量については、目標数値を下回る結果と

	なっている。
事業の今後について	世界遺産姫路城周辺環境の向上のほか、城と相乗効果のある魅力的なイベント（『観桜会・観月会』等）を実施することで市内外からの誘客を促進し、「歩行者通行量」の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

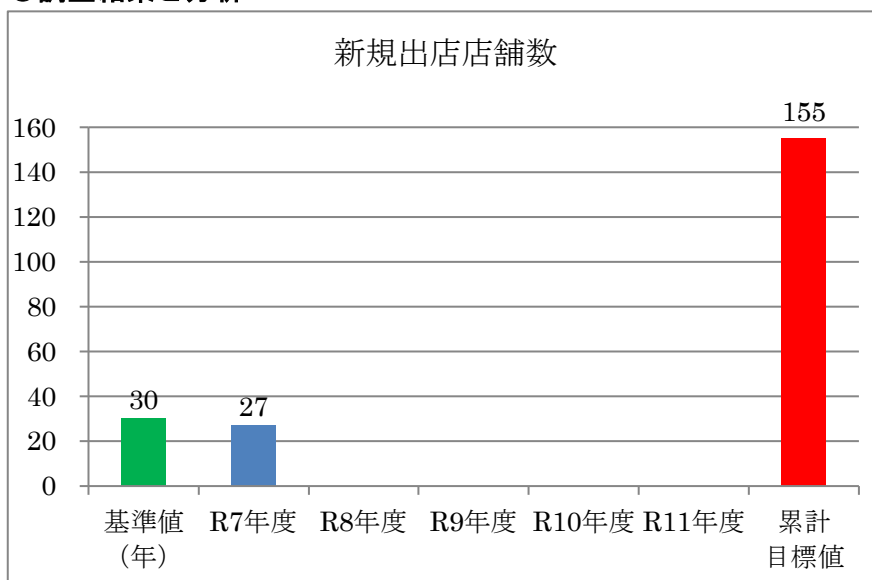
主要事業は概ね順調に進捗しており、「ウォーカブル推進事業」及び「大手前通り魅力向上推進事業」により、大手前通り地点における歩行者通行量の増加数は事業目標値を達成している。しかしながら、その他地点においては、前年度比から微減しており目標達成ができていない。

目標数値に近づけるように、ウォーカブルな取組や令和 8 年 10 月会場予定の（仮称）観光交流センターなど、訪れたくなる目的地を増やし、他のエリアにも誘引、回遊性を高める取組を民間事業者と連携しながら進めることで、目標達成は可能と見込まれる。

（２）「新規出店店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 60～P. 61 参照

●調査結果と分析



年	(単位：店舗)
R5～ R6 平均	30 (基準年値)
R7	27
R8	
R9	
R10	
R11	
R7～ R11 累計	155 (目標値)

※調査方法：調査員による現地調査（四半期ごと）

※調査月：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地 15 商店街

〈分析内容〉

新規出店店舗数の増加に向けた各事業については前年度実績から増加するなど、概ね予定通り進捗したものの、目標である年 31 店舗の新規出店には届かなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	令和 7 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店に対する支援を行い、新たな魅力ある店舗等の出店を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 令和 7 年度から 11 年度までの出店数平均 31 店舗（年） 【最新値】 令和 7 年度の新規出店数 27 店舗 当事業による令和 7 年度の新規支援件数は 10 件であり、昨年度の 4 件から増加した。新規支援件数のうち 4 件が改装費補助、6 件が家賃補助の支援によるものであった。
事業の今後について	令和 6 年度より従来の家賃補助から改装費に対する補助となった。制度内容見直し後も、事業の課題や時流に応じて要綱を見直すことで、中心市街地の商店街における出店促進を目指す。

②. 街なか創業支援事業（姫路市）

事業実施期間	令和 7 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等が挑戦しやすい環境づくり及び支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 令和 7 年度から 11 年度までの出店数平均 31 店舗（年） 【最新値】 令和 7 年度の新規出店数 27 店舗 当事業による令和 7 年度の支援実績は 7 件で、昨年度実績の 4 件から増加した。
事業の今後について	空き店舗を活用して創業する事業者に対し改修費および広告宣伝費の一部を補助し、まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等が挑戦しやすい環境づくり及び支援を行う。

●目標達成の見通し及び今後の対策

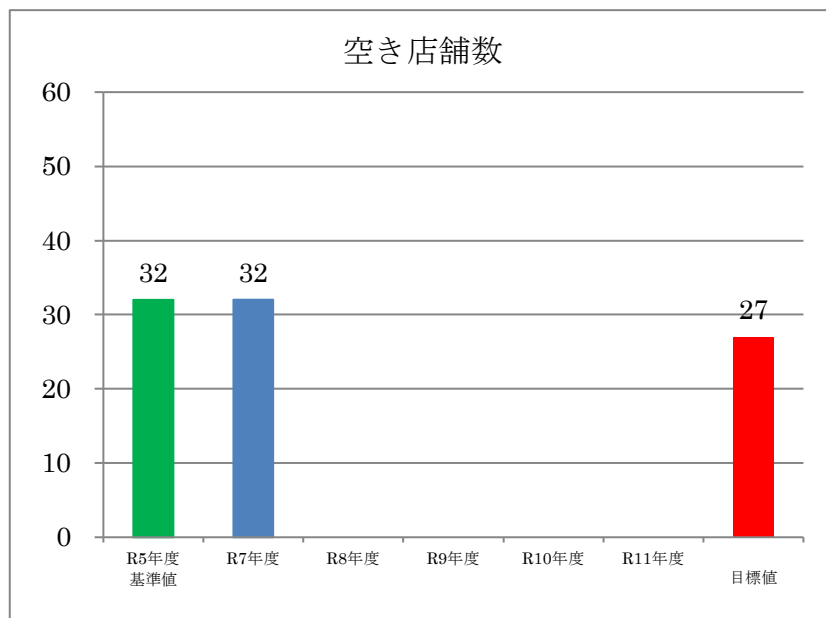
全体の新規出店店舗数としては目標数値に届かなかったものの、主要事業については、昨年度比で実績が増加するなど概ね順調であった。

今後も新規創業の増加に繋がるよう、事業の課題や時流に応じて制度の内容を見直すことで、目標達成は可能と見込まれる。

※補完目標「空き店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 61～P. 61 参照

●調査結果と分析



年	(単位：店舗数)
R5	32 (基準年値)
R7	32
R8	
R9	
R10	
R11	
R11	27 (目標値)

※調査方法： 調査員による現地調査（四半期ごと）

※調査月： 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月

※調査主体： 姫路市

※調査対象： 中心市街地 15 商店街

〈分析内容〉

【事業目標値】 令和 11 年度末の空き店舗数：27

【最新値】 令和 7 年度末の空き店舗数：32

「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「街なか創業支援事業」による新規出店店舗数の増加の影響もあり、前年度の 35 店舗から減少となっている。さらに、令和 7 年度に 4 か所の空き店舗が新規増加（旧ヤマトヤシキ跡地）しているが、前年度比減となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

※数値目標（2）「新規出店店舗数」に記載したものと重複するため省略

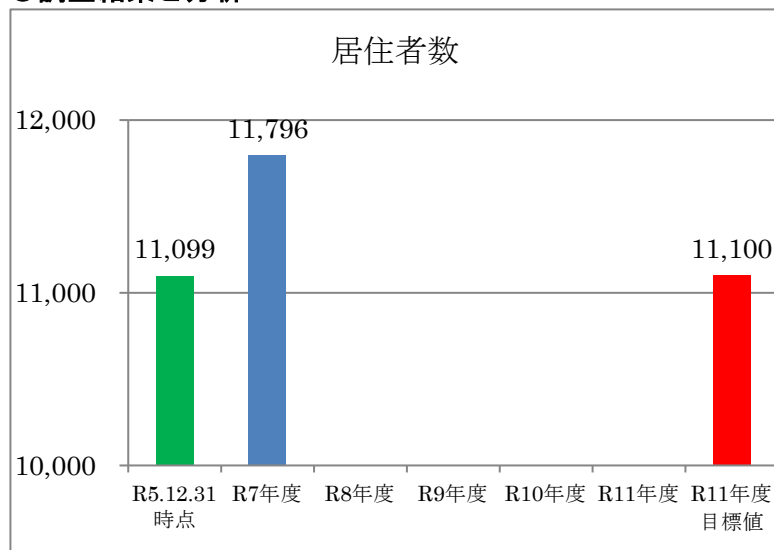
●目標達成の見通し及び今後の対策

減少傾向となっている。引き続き「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「街なか創業支援事業」による新規出店の促進により、更なる数値改善につながると考えられることから、目標達成は可能と見込まれる

（3）「居住者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 62～P. 62 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人)
R5	11,099 (基準年値)
R7	11,796
R8	
R9	
R10	
R11	
R11	11,100 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年12月末）

※調査月：令和7年12月末実施、4月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住

〈分析内容〉

居住者数増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗し、令和7年度居住者数は11,796人と前年度から539人増加しており、目標値を上回っている。

中心市街地における居住者数の増加は、引き続き民間事業者によるマンション建設に伴い、まちなかにおける居住先が増えたことが要因と考えられる。

第1期から第3期に至るまでの中心市街地活性化基本計画の記載事業の成果による居住快適性向上、姫路駅前の整備による公共交通（バス等）の利便性向上、生活利便性の高い商業施設のオープンや姫路駅周辺や大手前通りにおける歩行者優先の空間の整備など、これまでの取組を踏まえ中心市街地で暮らすことに対する魅力が向上していることが、継続的なマンション建設及び居住者数増に繋がっていると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 姫路駅周辺土地地区画整理事業（姫路市）

事業実施期間	平成元年度～令和11年度【実施中】
事業概要	本事業は、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系を確保し、駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備改善を行うとともに、新都市拠点としてふさわしい街区の形成を図ることを目的とする。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（姫路城周辺地区（第2期））
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】令和11年度の居住者数：11,100人 【最新値】令和7年度末の居住者数：11,796人

	当該事業は計画どおりに進捗している。 事業目標値である 288 人の居住者数増加（新規住宅の供給 160 戸×本市の現況平均世帯人員 1.8 人/世帯：他の主要事業も含む計画区域内の合計値）に対して、当該事業区域内の居住者数では令和 7 年度に 30 人増加（自然増減数を含む）しており、順調に推移している。
事業の今後について	今後も引き続き、支障物件の移転交渉と内環状東線及び区 8-1 号線の整備を進め、令和 11 年度の事業完了を目指す。

②. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（姫路市）

事業実施期間	平成 19 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	本地区は公共施設の整備が不十分なまま市街化し、土地利用が無秩序に混在化していたことから、本事業は、都市基盤施設の整備改善並びに宅地の利用増進を図り、姫路市の主核に相応しい計画的な市街地として再生することを目的とする。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 令和 11 年度の居住者数：11,100 人 【最新値】 令和 7 年度末の居住者数：11,796 人 当該事業は計画どおりに進捗している。 事業目標値である 288 人の居住者数増加（新規住宅の供給 160 戸×本市の現況平均世帯人員 1.8 人/世帯：他の主要事業も含む計画区域内の合計値）に対して、当該事業区域内の居住者数では令和 7 年度に 31 人増加（自然増減数を含む）しており、順調に推移している。
事業の今後について	今後も引き続き、換地計画等を進め、令和 9 年度の事業完了を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。

中心市街地において計画されている大型のハード整備は一段落しているが、都市機能の増進を図るソフト事業、大手前通り魅力向上推進事業、イルミネーション事業やほこみち活用による「住みたいまち」としてのブランド力向上など、引き続き中心市街地の魅力や付加価値を更に向上させていくことで、居住者の増加も見込まれる。また、継続して姫路駅周辺の区画整理を実施することで、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化が進み、「住み続けたいまち・住みたいまち」としての魅力向上が見込まれ、目標達成は可能と見込まれる。